

令和6年度高等学校生徒支援体制充実事業 教育活動充実支援事業【インターンシップ】研究成果発表

宮城広瀬高等学校

目的

インターンシップにおいて、事前・事後学習の改善を行うことで、職業適性や職業選択についての考えを深め、就職活動に関する適応力を高める。またキャリア教育やインターンシップ教育の先進校視察を行い、今後のインターンシップ教育に向けた研究を進める。

概要

◆インターンシップの事前学習として意義やビジネスマナー、留意事項等について学び、事後に振り返りや報告会を行うことで、生徒が主体的に取り組み、自己理解や職業理解を深める姿勢を育てる。

・事前学習「なんのためのインターンシップ」「働くってどんなこと」「企業研究」「インターンシップでの諸注意」「マナー講座」

・7月29日(月)～31日(水) インターンシップ実施

・事後学習「インターンシップ振り返り、自己評価」「インターンシップ報告会」

※本校ではインターンシップの事前・事後指導及び就業体験の実施時間が1750分を超えた場合、「社会体験活動」として単位認定(1単位)を行っている。

◆先進校視察を行い、キャリア教育や地域連携教育について学ぶ。

具体の取組①

- インターンシップ事前学習
 - ①就職を希望する理由や職種の希望など、就職に関する自分の考え方をまとめる。
 - ②社会人としての言葉遣いや態度、職種毎に配慮する点など、就業体験を行うにあたっての態度や諸注意を学ぶ。
 - ③インターンシップでの諸注意や確認事項
- インターンシップ事後学習
 - ①就業体験を通して、体験したこと学んだことについてまとめる。
 - ②就職に向けて、これから取り組まなくてはならないことについて明らかにする。
 - ③上記①②について就業体験を行った他の生徒の前で発表を行う。
- インターンシップ報告会
 - ・就業体験の様子や学んだこと、今後の生活に生かしたいことなどを各自でスライドにまとめ、発表した。

成果と課題

就職への意識や職業理解を深めることで、生徒自らの人生や就業の意義、自己の適性について深く考察する機会となり、今後の就職活動への動機付けとなった。体験先から評価を受けたことが大きな達成感と自信になったようだ。

具体の取組②

◆キャリア教育先進校視察 訪問先

- 岩手県立福岡高等学校
 - ・地方創生の一翼を担う「グローバル人材」の育成を目的として、「地方創生カシオペア講座」に取り組む
 - ・大学・自治体・民間企業と連携し、自分の暮らす地域を知り、抱えている課題について、グローバルな視点から考える力を養う
- 岩手県立大槌高等学校
 - ・週2時間の「三陸みらい探究」を開講し、1・2年の2年間を使い、自分のテーマを立て、自分自身の課題意識に対してプロジェクトプランを実践する活動を行う
 - ・自分の興味関心をみつけるために、自己理解プレゼンや多様な大人との対話、大槌町や三陸地域の課題発見プログラム等を実施
- 岩手県立遠野高等学校
 - ・総合的な探究の時間では、市役所や企業、大学などの支援を受け、地域の食生活の改善など12のゼミを開講
 - ・生徒は自分の興味・関心に基づいてゼミを選択
 - ・社会人アドバイザーによる企画書の添削を実施
- 神奈川県立川崎高等学校
 - ・単位制普通科高等学校「フレキシブルスクール」。
 - ・チューター制を採り生徒一人ひとりが自分の進路や関心に合わせて少人数の額数集団で学ぶ。
- 神奈川県立田奈高等学校
 - ・クリエイティブスクールとして「やりなおしたい」「学びなおしたい」「再チャレンジ」を後押しする。
- 東京都立立川緑高等学校
 - ・令和7年4月開校のチャレンジスクール。
 - ・生徒の個性・居場所・自立を重視し企業等と連携しインターンシップを実施予定。



成果と課題

どの学校も積極的に外部に頼ることで、専門的な見地による指導を実施したり、教員はメンター役に徹することで負担を軽減するなど、持続させるための工夫や方策がなされていた。そのための予算の確保が課題となっており、予めグランドデザインをしっかりと描き、実践するために必要となることやものを地道に積み上げて自治体や企業の協力を得ていた。今すぐにそのままの形で本校に当てはめて実践することは難しいが、本校の実情に合わせて取り入れていきたい。



インターンシップの様子